



東京女子医科大学学術リポジトリ  
<https://twinkle.repo.nii.ac.jp>

# Current state of hypnotic use disorders: Results of a survey using the newly developed Japanese version of the Benzodiazepine Dependence Self-Report Questionnaire

著者名	山本 舞
発行年	2018-03-16
URL	<a href="http://doi.org/10.20780/00032108">http://doi.org/10.20780/00032108</a>

## 主論文の要旨

Current state of hypnotic use disorders: Results of a survey using the newly developed Japanese version of the Benzodiazepine Dependence Self-Report Questionnaire

(日本語版ベンゾジアゼピン依存自記式評価票 Benzodiazepine dependence self-Report Questionnaire を用いた睡眠薬使用障害の実態調査研究)

東京女子医科大学大学院  
内科系専攻精神医学分野  
(指導：西村 勝治 教授)

山本 舞

Neuropsychiatric Disease and Treatment に投稿準備中

### 【要旨】

不眠症の治療薬であるベンゾジアゼピン受容体作動薬(benzodiazepine receptor agonist: BZ-RAs)は優れた鎮静催眠効果を示し処方頻度も高率である一方、臨床現場には長期使用患者が多数存在し、その依存性との関わりが指摘されている。本研究では BZ-RAs 使用障害の実態と背景要因を評価し把握する目的で、ベンゾジアゼピン自己記入式評価票 (Benzodiazepine dependence self-Report Questionnaire: Bendep-SRQ) の日本語版を作成し、日本人を対象として多施設共同調査を行った。

Bendep-SRQ の作成者である Kan の許可を得て日本語版を作成し、2012 年 8 月～2013 年 3 月の間に研究参加施設に入院または通院中の BZ-RAs 服用患者を対象とした。臨床情報を収集し、Bendep-SRQ の 4 つのディメンジョン（薬への執着、服薬非遵守、問題のある服用法、離脱症状）および離脱性不眠の重症度と関連する要因をロジスティック解析により抽出した。

BZ-RAs 服用患者 707 名より有効回答が得られ、このうち 324 名が減薬経験を有した。各ディメンジョンの重症度は、軽度から重度まで概ね均等に分布した。ロジスティック解析の結果、「過去 6 カ月間の合計使用薬剤数」が 4 つのディメンジョンと離脱性不眠すべての重症度に関連した。服用剤数増加の主な原因は短期間での薬剤変更であった。若年者ほどその傾向が顕著で、また、服用剤数が多いほど重症者の割合は高くなった。一方で BZ-RAs 服用力価はいずれのディメンジョンにも関連しなかったことから、BZ-RAs 使用障害は用量依存的にリスクが高じるのではなく、心理的依存の側面が強いと推察された。